

□ (評論) 採点基準 (合計 50点)

問一 2点×4 = 8点

(解答) a ニ b イ c ハ d 口

問二 4点

(解答) ニ

問三 4点×2 = 8点

(解答) X 口 Y ニ

問四 9点

(解答例)

A ○2点

B ○1点

C ○1点

D ○1点

経済活動が円滑に行われるためには、国内の治安の確保、言語の共有、取引にかかわる法の執行、

E ○1点

F ○3点

関税による国内市場の保護など、国境線が前提とされなければならないから。(9点)

✖制限字数の半分以上書かなかった場合は✖無得点とする。

▲「から。」や「こと。」のように、設問要求に正確に答えていない場合、文末不備として1点減点。

▲句点を付けていないものも1点減点。

▲誤字は1点減。

■各加点要素の加点の条件

A 「経済活動が円滑に行われるためには」 (2点)

B 「国内の治安の確保」 (1点)

○ 「治安の維持」 「国家による治安維持」 も可○。

C 「言語の共有」 (1点)

✖ 「リテラシーの共有」 は無得点。本文に「言葉」「言語」とあるのでこれに従う。

D 「取引にかかわる法の執行」 (1点)

○ 「法の整備」「法が整備・執行される」も可

E 「関税による国内市場の保護など」 (1点)

○ 「関税」に触れていれば可○。

✖ A・B・C・Dについては、Fのような「前提とされているから」「必要とされるから」といった結びとなる部分がなければ、得点を与えない。

F 「国境線が前提とされなければならないから」 (3点)

△ 「国家の役割が必要になるから」とした場合はFは△1点。

△ 「国境が求められる」は△1点。

✖ 「国境線」を「境界線」としているものは不可✖。

✖ 「国境」という語が無いものは不可✖。

問五 5点

(解答) 相対的 ↓ 絶対的

問六 8点

(模範解答例)

A〇2点

B〇1点

C〇2点

経済がグローバル化し、市場が世界を覆ったとしても、市場以外の部分がなくなることはなく、  
D〇3点

市場的なものとそうでないものの間の境界線は残るから。

※E Cがなく、「市場を批判しようとする立場がある限り」としてDにつなげている場合、1点を  
与える。Cが同時にある場合は、得点無し。

✖制限字数の半分以上書かなかった場合は✖無得点とする。

▲「から。」や「こと。」のように、設問要求に正確に答えていない場合、文末不備として1  
点減点。

▲句点を付けていないものも1点減点。

▲誤字は1点減。

■各加点要素の加点の条件

A 「経済がグローバル化し」(2点)

○ 「グローバル化」は「ボーダーレス化」でもよい。

B 「市場が世界を覆ったとしても」(1点)

C 「市場以外の部分がなくなることはなく」(2点)

D 「市場的なもの」とそうでないものの間の境界線は残るから。」(3点)

※E Cがなく、「市場を批判しようとする立場がある限り」としてDにつなげている場合、1点を  
与える。Cが同時にある場合は、得点無し。

問七 4点×2＝8点

(解答) 口・く

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 2点×4 = 8点

(解答) 1 反旗 2 痕跡 3 奨励 4 破綻

問二 3点×2 = 6点

(解答) a 二 b 二

問三 12点

(模範解答例)

A 3点

B 3点

産業社会への転換によって 繁榮しているように見えるが、

C 3点

自由放任主義経済による独占と富の集中が深刻化し、社会全体に富が行き渡っていない、

D 3点

極端な格差社会となった時代。 (80字) (12点)

■形式上の不備

- ・文末表現…理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数…八〇字以内 **三九字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

A 「産業社会への転換によって」(3点)

※社会が産業化したことについて説明していないものは、要素A加点なし ※0点。

B 「繁栄しているように見えるが」(3点)

※産業化し繁栄をもたらしたようにみえることについて説明していないものは、要素B加点なし ※0点。  
○「一見すると反映しているが」「繁栄の陰で」などで○。

C 「自由放任主義経済による独占と富の集中が深刻化し社会全体に富が行き渡っていない」(3点)

※実は自由放任主義であったために富の偏在が生じたことについて説明していないものは、要素C加点なし ※0点。

▲「富の集中」に触れていないもの ▲2点減点。

○「自由放任主義経済の激しい競争の背後で独占企業が富を吸い取る」「背後では自由放任主義経済によって巨大企業が富を独占している」などで○。

D 「極端な格差社会となった時代」(3点)

※要素Cのために、大きな格差があることについて説明していないものは、要素D加点なし ※0点。

○「格差社会となった」「格差が極端に広がった歪んだ時代」「(格差などの)社会の歪みが深刻化していった時代」などで○。

※「歪んだ時代」のみでは説明不十分 ※。

問四 4点

(模範解答例)

A ○2点

B ○2点

機会を公平にし、生産性を高めること。 (4点)

■形式上の不備

・文末表現…理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可。  
・句点の扱い…1点減点

■字数…二〇字以内 **九字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

A 「機会を公平にし」(2点)

※本文「一人一人の分け前も増加する可能性を高める」について、「一人一人の可能性を高める」を、端的にまとめて説明していないものは要素A加点なし ※0点。

※「格差解消のため」

※「多くの人が試合に参加するべき」はアメリカ社会のあり方について説明できていないので ※。

## B 「生産性を高めること」(2点)

- ※ 「要素Aを実現するためには「生産の最大化」が必要になることを説明していないものは要素B ✖0点。

## 問五 12点

## (模範解答例)

A ○3点

B ○3点

確かなルールと監視体制によって 民主主義の理想と資本主義による繁栄を

C ○3点

両立させることができるという信念こそが、

D ○3点

アメリカ型競技を成長させる基礎になっているということ。(80字) (12点)

## ■形式上の不備

- ・文末表現…理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数…八〇字以内 **三九字以下のものは全体不可(0点)**

## ■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

## A 「確かなルールと監視体制によって」(3点)

- ✖ 本文「この信念」の内容として、「ルールと監視体制」について説明していないものは要素A加点なし ✖0点。

## B 「民主主義の理想と資本主義による繁栄を」(3点)

- ✖ 本文「この信念」の内容として、「民主主義と資本主義」について説明していないものは要素B加点なし ✖0点。  
○ 「民主主義の理想」は「自由」、「資本主義の繁栄」を「豊かさ」としても○。

## C 「両立させることができるという信念こそが」(3点)

- ✖ 本文「この信念」の内容として、要素Bの「両立」を説明していないものは要素C加点なし ✖0点。

## D 「アメリカ型競技を成長させる基礎になっているという」(3点)

- ✖ 傍線部「ゆりかご」を一般化して説明していないものは要素D加点なし ✖0点。  
○ 「ゆりかご」の言い換えは、「成長」「育成」「普及」「発展」「基礎」「基盤」など。

問六 4点

(解答) 八

問七 4点

(解答) 人為的集團統合 (7字)



〔三〕(古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×4＝4点

(解答) a ずいじん b けしき c ぞうしき d だいいり

「ポイント」

ひらがな・現代仮名遣いでなくてはならない。

※ aとdは三字であること。

○句読点不要(不問)。

※不正解例

a 「ずいしん」 等      b 「きしよく・きそく」 等  
c 「きふしき・そうしよく」 等      d 「うち」 等

問二 3点×3＝9点

(解答) X イ                      Y ニ                      Z ト

問三 3点×3＝9点

(解答) 甲 口                      乙 二                      丙 ホ

問四 2点×3＝6点

A (解答例) 2点

少しも

「ポイント」

※ 「つゆ」の現代語訳。

○後方の打消(ざり)と呼応して全否定になっていれば「全く・全然」などでもよい。

※ 「あまり・少し・やや」などは×。

C (解答例) 2点

言うまでもなく

「ポイント」

※ 「さらなり」の現代語訳

※ 「もちろん・当然」などでもよい。

△ 「言うまでもない」のように連用修飾の形になっていない場合は、▲ 1点減点で△ 1点。

D (解答例) 2点

賞賛し

「ポイント」

※ 「めで」の現代語訳

○ 「ほめ・たたえ・ほめたたえ」などでもよい。

△ 「気に入り・心ひかれ」などは【1点】。

✕ 「愛し・好み・めでたく」などは×。

▲ 「ほめる・心ひかれる」のように連用修飾の形になっていない場合は、▲ 1点減点で△ 1点。

問五 5点

(解答) 二

(解答例)

A ①〇2点

A ②〇1点

「生まれてくる自分の孫が息子であるなら

調六が出る」と言って賽を振ったところ、

B 〇3点

「一度で調六が出たこと」。(6点)

「ポイント」

※主語(九条殿)を書く必要はないが誤っている場合は▲1点減点とする。

※要素Bが0点の場合は、Aは得点できない。

A 「生まれてくる自分の孫が息子であるなら調六が出る」と言って賽を振ったところ」(3点)

※①「生まれてくる自分の孫が息子であるなら」(2点)と②「調六が出る」と言って賽を振ったところ」(1点)にわけて採点する。

①「生まれてくる自分の孫が息子であるなら」(2点)

○「皇子が生まれるなら」、または「生まれるのが皇子なら」、「孫が皇子なら」の意があれば〇2点。

○「皇子」は「男子」でもよい。

○「生まれる」は「娘のお腹にいる」でもよい。

○「娘のお腹の子が男ならば」で〇。

▲「娘の」がない「お腹にいる」は▲減点1点。

○「自分の孫」の有無は不問。

②「調六が出ると言って賽を振ったところ」(1点)

○「調六出ると言って賽を振ると」、または「調六出ると言っていたところ」の意があれば〇1点。

○「調六」は「六のぞろ目・縁起のいい目」などでもよい。

○「賽」は「サイコロ」などでもよい。

B 「一度で調六が出たこと」(3点)

▲「一度で」が無く、「調六が出たこと」の意のみの場合▲1点減点で△2点。

○「調六」は「六のぞろ目・思ったとおりの目」などでもよい。

▲「六」を算用数字「6」と書いている場合は▲1点減点。

○「調六」の意はBに無くても解答全体から読み取ればよい。

(例)「皇子が生まれるなら調六が出ると言って賽を振ると、一度でその目が出たということ。」「

(解答例)

A ①○1点

A ②1点

B ③3点

朱雀門の前で 両足を大宮大路に置いて、内裏を抱いて立っているという夢で、

C ④4点

自分を含め、子々孫々が摂政・関白となって繁栄することを期待させるもの。(70字)(9点)

「ポイント」

A 「朱雀門の前で両足を大宮大路に置いて」(2点)

○主語「九条殿が」の有無は不問。

※①「朱雀門の前で」(1点)、②「両足を大宮大路に置いて」(1点)にそれぞれ加点する。

①「朱雀門の前で」(1点)

○「北を向いて」の意の有無は不問。

②「両足を大宮大路に置いて」(1点)

※厳密には「(都をまたぐように)右足を東の大宮大路に置き、左足を西の大宮大路に置いて」ということなので、この意にとれない場合は✕。

○「大宮大路」は「大宮通り」でもよい。

✕「大宮大路」が「大宮」となっている場合は✕。

B 「内裏を抱いて立っているという夢で」(3点)

○「内裏を抱いている夢」の意があれば○。

○書き方は、模範解答のように、ここまでを「〜夢で」と区切っておらず、全体で夢の説明をしているも良い。

C 「自分を含め、子々孫々が摂政・関白となって繁栄することを期待させるもの」(4点)

①「自分(九条殿)が栄える」の意があれば1点

②「子々孫々(子孫・一族)が栄える(出世する)」の意があれば1点。

○「栄える」は「出世する・世を掌握する・宮中を我が物にする」などでもよい。

○「子々孫々」は「子孫・一族」などでもよい。

③「摂政・関白になる」の意に2点。

※文末の「を期待させるもの」の有無は不問。

問八 1点×2＝2点

(解答) イ・ハ

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a おおし

b しからばすなわち

c ここをもって

d よりて

「採点のポイント」

▲歴史的仮名遣いの場合、▲減点1点。

例 a 「おほし」 b 「しからばすなはち」

✖ 送り仮名の不足は0点。

✖ b 「しかれば」は✖。

△ 「すなわち」ができていれば部分点△1点。

○ c 「ここをもって」は「ここをもって」も可。

○ d 「よりて」は「よつて」「よつて」も可。

問二 6点

(解答) 二

問三 8点

A ○2点

B ○2点

C ○4点

(解答例)

火をおこして

生ものを焼くことず

病気になるのを避けることができたこと。

「採点のポイント」

A 「火をおこして」(2点)

○ 「火をおこす」に触れていれば可。「火を入れること」「聖人が火を起こし」「火を使うこと」など○。

○ 「火打石で」は不要。あっても不問。

B 「生ものを焼くことず」(2点)

○ Bは「生もの」は「食物」でも可。

○ 「食べ物に火を通した」などで○。

△ 「はまぐり」と具体のままでは1点。

○ Aとのつながりで「焼くこと」が読み取ればよい。

C 「病気になるのを避けることができたこと」(4点)

△ 「生臭さを軽減させることができたこと」などは△2点。

○ 「胃腸をこわすことがなくなったこと」は○4点。

問四 6点+8点=14点

(i) 6点

(A)

B 3点

A 3点

(解答例) きつと 今の世の聖人に 笑われるだろう。 (6点)

「採点のポイント」

A 「きつと」笑われるだろう」(3点)

○ 「きつと」は無くて可○。「必ず」のままでも可○。

✖ 「笑い者になる」は✖。

○ 「笑われるにちがいない」は○。

○ 「笑い者にされる」は○。

○ 「笑われてしまうだろう」「笑い者にされるだろう」などで○。

B 「今の聖人に」(3点)

○ 「今の世の聖人」は「新しい時代の聖人」など可○。

✖ 「新しい聖人」は✖

(ii) 8点

A 2点

B 2点

(解答例) 古代の聖人たちの功績は、たとえ素晴らしいものであっても、

C 2点

D 2点

現代の事情には合わないものであることを 理解していないから。 (8点)

「採点のポイント」

A 「功績」は「業績」「成果」「やり方」「考え」「思想」など可。

B 「画期的なものであっても」「昔は尊敬されていた行いであっても」「かつては偉大な行いであっても」など可。

C 「時代錯誤」「時代遅れ」など可。

✖ 笑われる原因・理由を答えずに、真の聖人の在り方を述べているものは✖0点。

問五 6点

(解答) ハ

問六 2点×4=8点

(解答) ① ロ ② ニ ③ ホ ④ イ